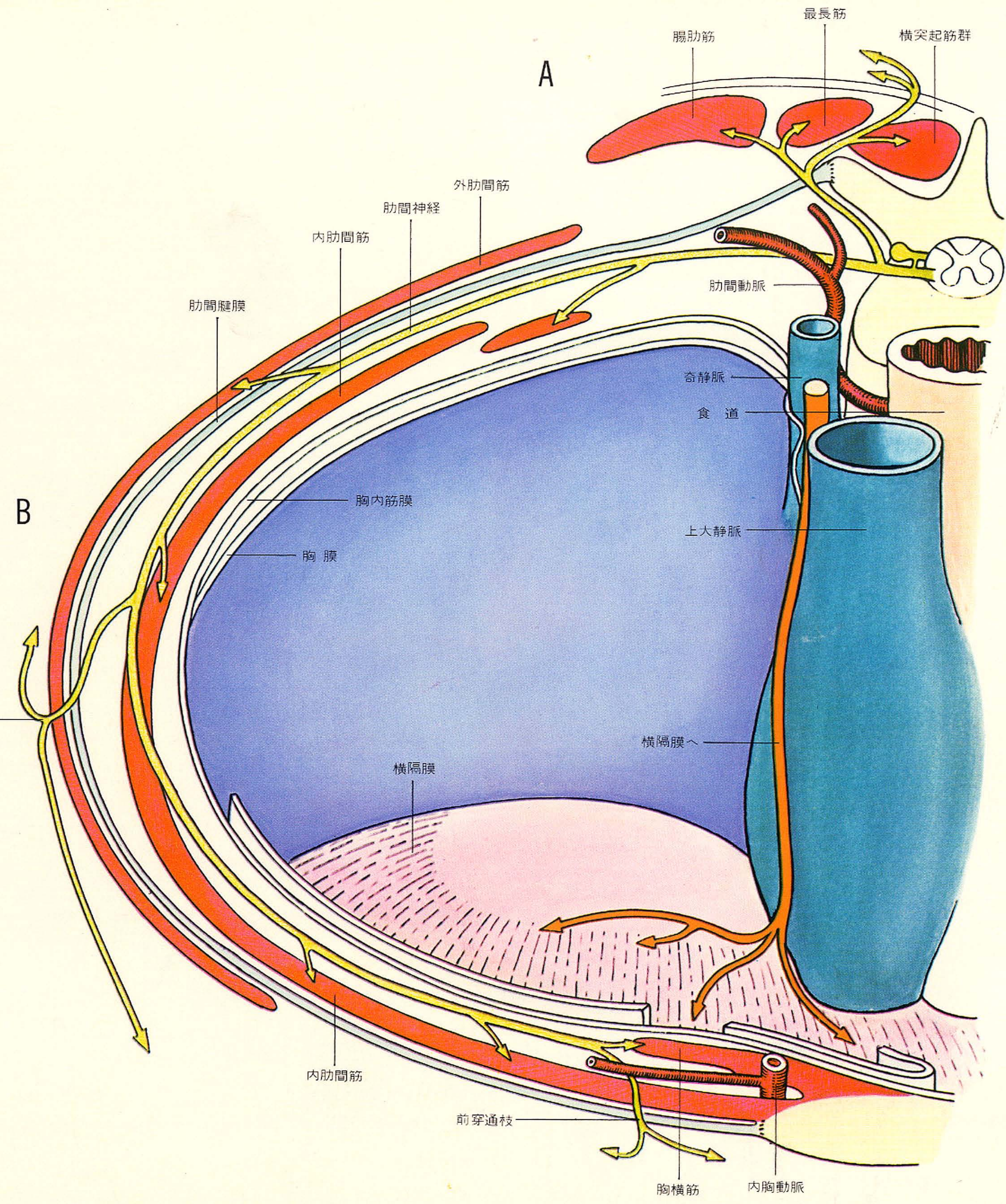
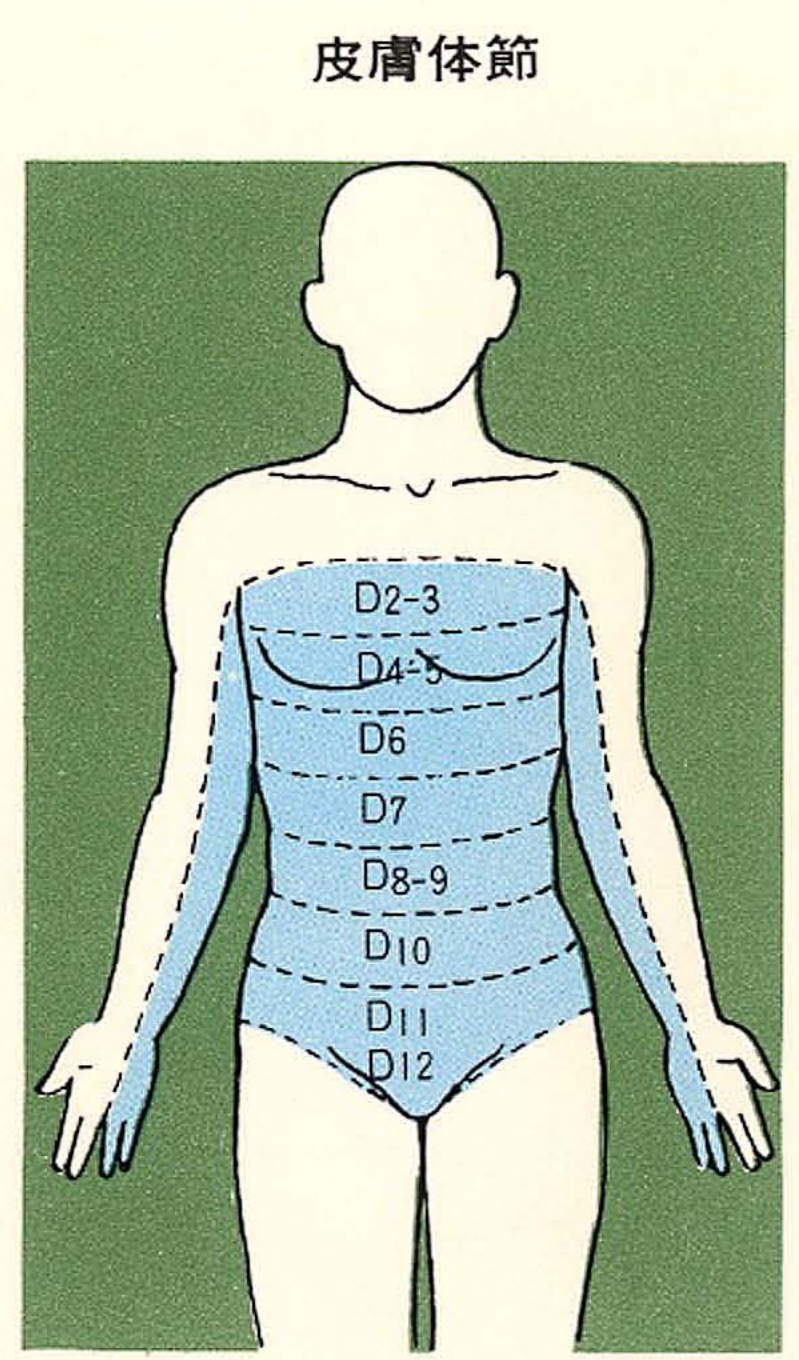


# 肋間神経、横隔神経



## 肋間神経 (Nn. intercostales)

D<sub>1</sub>~D<sub>12</sub>の前枝で12対ある。肋間動脈の下側に併行して肋間隙を前外方に走る。この神経と動脈は内、外肋間筋の間にある。下方の肋間神経は肋骨をとびこして、正中方面にすすみ、腹壁の側前方部を被う。筋枝は以下を支配する。

- 深胸筋：
- (1)肋骨挙筋：固有背筋の下にある12対の小筋で、胸椎の両側にある。肋骨を引き上げる。
  - (2)外肋間筋：各肋間にあり、後上方から前下方へ線維が張り、肋骨を引き上げる。
  - (3)内肋間筋：上の筋の内面にあり、前上方より後下方に線維が張り、肋骨を引き下げる。
  - (4)胸横筋：胸廓前面の内面にあって、胸骨からおこり、斜上外方に行き肋骨についている。肋骨を引き上げる作用がある。
- 上後鋸筋、下後鋸筋：棘突起から出て肋骨に付く強い筋肉で、肋骨を上、下させる。
- 前腹筋(腹直筋が主)：脊柱を前方へ屈曲し、腹圧を加える作用がある。
- 側腹筋：外斜腹筋、内斜腹筋、腹横筋などで肋間神経の外に、腰神経の枝で支配されている。腹圧を加える作用がある。
- なお固有背筋は、脊髄神経の後枝で支配され、肋間神経支配ではない。
- 皮枝：2本前後にあり、胸腹部の前面と側面の知覚を支配する(背面は脊髄神経の後枝による)。

## 横隔神経 (N. phrenicus)

走行については前述した。横隔膜は上面が胸(肋)膜、心膜で被われ、下面が腹膜で被われている。呼吸、特に吸気を司る重要な神経で、麻痺すると横隔膜が上方へ偏位する。両側麻痺すれば呼吸困難を来す。